

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

25年8月の牛肉生産量はかなり大きく減少、卸売価格は大幅に上昇

25年8月の牛肉生産量は前年同月比11.9%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年8月のフィードロット導入頭数は178万頭（前年同月比9.9%減）とかなりの程度減少し、さらに出荷頭数は157万1000頭（同13.6%減）とかなり大きく減少した。導入頭数と出荷頭数の減少については、1）牛飼養頭数の減少、2）メキシコからの肥育もと牛の輸入停止^{（注1）}、3）肥育期間の長期化—などが継続している影響とみられる。この結果、同年9月1日時点のフィードロット飼養頭数は1108万頭（同1.1%減）とわずかに減少した。

このような中、8月の牛と畜頭数は233万3000頭（同13.7%減）とかなり大きく減少した（図1）。その結果、同月の1頭当たり枝肉重量は394.2キログラム（同2.1%増）とわずかに増加したが、同月の牛肉生産量は91万5000トン（同11.9%減）とかなり大きく減少した（図2）。

25年の牛肉生産量についてUSDAは、1171万4000トン（前年比4.3%減）とやや減少すると見込んでいる。

（注1）詳細は海外情報「米国はメキシコからの生体牛の輸入を再度停止（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004112.html）をご参照ください。

図1 牛と畜頭数の推移

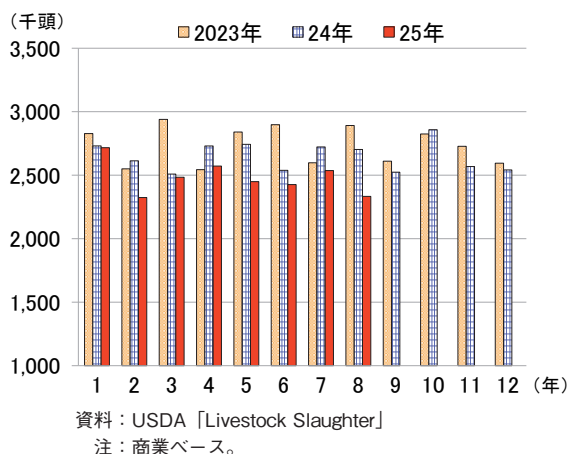
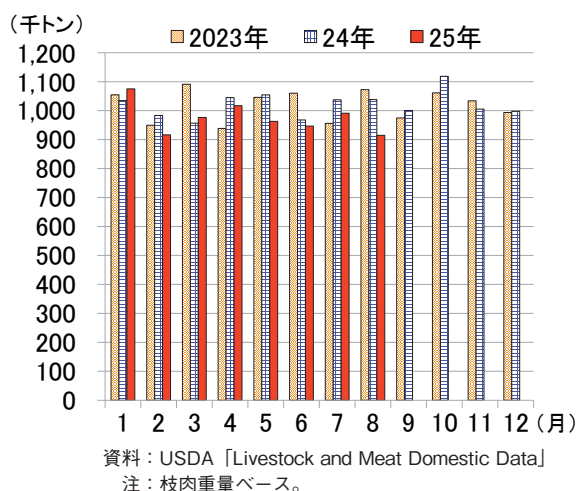


図2 牛肉生産量の推移



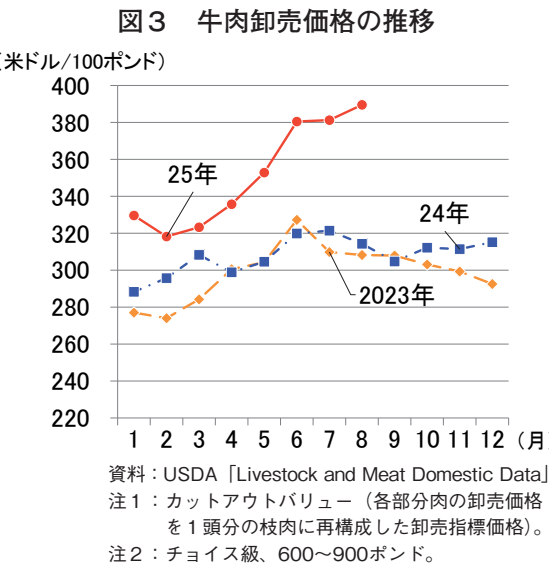
25年8月の牛肉卸売価格、前年同月比23.9%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年8月の肥育牛価格は、堅調

な需要と供給頭数の減少から、100ポンド当たり239.00米ドル（1キログラム当たり790円：1米ドル＝149.88円^{（注2）}、前年同月比22.3%高）と前年同月を大幅に上回り、当調査開始以来の最高額を記録した。

また、同月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注3）}）は、同389.50米ドル（同1287円、23.9%高）と前年同月を大幅に上回って推移している（図3）。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年9月末TTS相場。
（注3）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。



25年7月の牛肉輸出量は前年同月比18.6%減

USDA/ERSによると、2025年7月の牛肉輸出量は9万5522トン（前年同月比18.6%減）と大幅に減少した（表）。中でも中国向けは、中国海関総署（GACC）による更新期限を迎えた米国内の中国向け牛肉輸出施設登録の更新が行われず^{（注4）}、米国から中国への牛肉輸出の大部分が停止している状況にあるため、1158トン（同93.5%減）と大幅に減少した。

25年の輸出量についてUSDAは、牛肉生産量の減少や直近の輸出動向を踏まえ、119万8000トン（前年比12.1%減）とかなり大きく減少すると見込んでいる。

（注4）5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた2025年3月、GACCにより豚肉・鶏肉の輸出施設の認可登録が更新された一方で、牛肉の輸出施設の一部については未更新の状況が続いている。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 7月	25年 7月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
日本	27,189	25,047	▲7.9%	26.2%	174,212	▲2.7%
韓国	21,117	24,384	15.5%	25.5%	179,725	9.4%
メキシコ	13,346	11,075	▲17.0%	11.6%	81,399	▲9.9%
カナダ	11,450	9,993	▲12.7%	10.5%	63,455	▲10.8%
台湾	8,635	6,416	▲25.7%	6.7%	44,700	▲13.9%
香港	3,095	4,419	42.8%	4.6%	25,093	19.9%
フィリピン	1,843	2,525	37.0%	2.6%	13,169	5.3%
中国	17,927	1,158	▲93.5%	1.2%	66,235	▲47.2%
その他	12,768	10,506	▲17.7%	11.0%	80,987	▲8.0%
合計	117,370	95,522	▲18.6%	100.0%	728,975	▲9.3%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 国際調査グループ）

豪州

牛肉需要は好調を維持、年間牛肉生産量は過去最高の見通し

25年9月若齢牛価格、22年以来の9豪ドル台に突入して安定して推移

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2025年9月第2週に22年以來となる1キログラム当たり901豪セント（900円：1豪ドル＝99.89円^{（注1）}）を記録し、直近9月30日時点では同878豪セント（877円）と安定した推移を見せている（図1）。これについて現地アナリストによると、気象条件の改善により、南部地域（主にビクトリア州、南オーストラリア州）の牧草肥育農家の若齢牛導入意欲が高まっていることが要因とされている。一方、今後の見通しについては、北部地域（主にクイーンズランド州）における乾季（4～11月）終盤の集牧による選別工程^{（注2）}を経て、家畜市場への季節的な供給増が見込

まれることから、価格上昇は落ち着くと分析されている。

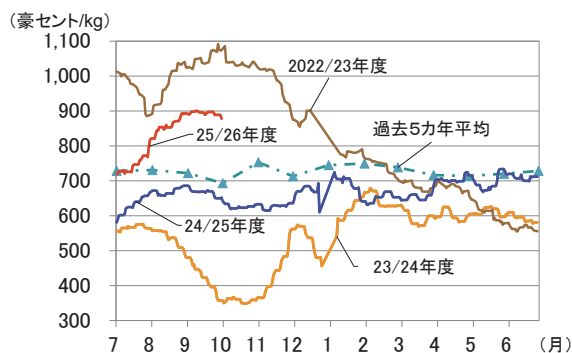
（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年9月末TTS相場。

（注2）熱帯性気候地域で雨季と乾季が明確に分かれる豪州北部で見られる牛群管理の手法。通年放牧している牛群を雨季が始まる前に集め、市場や加工施設へ出荷する牛や保留する牛を選別する。雨季に入ると子牛の出産が増えること、悪天候により家畜の移動に制限がかかることが多いことから、このタイミングで選別が行われる。

成牛と畜頭数は安定して推移、年間牛肉生産量は過去最高と予測

2025年9月の週間成牛と畜頭数は、同月第3週時点で15万1320頭（前年同期比7.9%増）と安定して推移している（図2）。MLAが9月に公表した最新予測によると、25年のと畜頭数は902万頭（前年比8.6%増）、牛肉生産量は過去最高の279万トン（同8.7%増）を記録する見通しとされている。一方、堅調なと畜頭数および高い雌牛と畜割合

図1 EYCI価格の推移

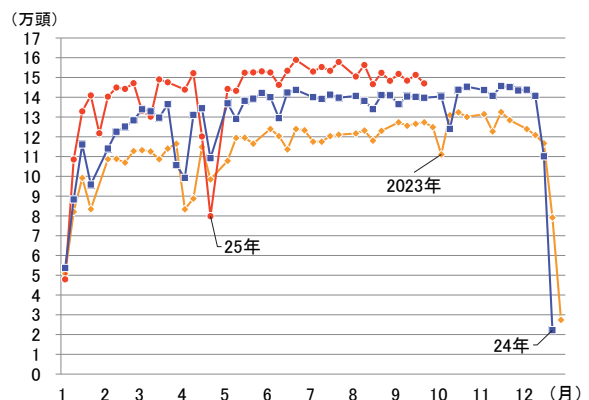


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ（子牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

(FSR) にもかかわらず、25年6月30日時点の牛群飼養頭数は3100万頭（前年同日比0.2%減）と、前年並みにとどまっていると予測されている。この要因として、1）ここ5～10年における牛群の遺伝的能力の向上、2）牧草地の改善、3）フィードロット産業の収容能力上昇に伴う牛の肥育施設または若齢牛市場への出荷月齢の早期化—などにより農場の回転率が高まり、有用な後継雌牛の確保が円滑に進んでいることが背景にあると分析されている。

25年8月の牛肉輸出量、中国向けの伸びなどで前年同月比11.3%増

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年8月の牛肉輸出量は13万5570トン（前年同月比11.3%増）とかなり大きく増加し、月間記録としては7月の15万435トンに次ぐ過去2番目の水準となった（表）。MLAによると、特に穀物肥育牛肉の需要が伸びたとされ、8月の穀物肥育牛肉の輸出量は過去3番目の水準となる3万8284トン（同16.2%増）を記録している。

8月の輸出量を輸出先別に見ると、米国向けは4万754トン（同0.6%減）とわずかに減少したものの、輸出量全体の約3割を占める旺盛な需要は継続している。

中国向けは2万2323トン（同47.4%増）と大幅な増加が続いている。MLAによると、7月24日からの中豪FTAに基づくセーフガード発動^{（注3）}以降、12%の関税が課されているものの、米国産の代替として豪州産穀物肥育牛肉の需要は堅調を維持しているとされている。一方、中国商務部が実施している輸入牛肉のセーフガード措置に関する調査^{（注4）}については警戒感を強めており、11月26日の期限が迫る中、豪州産牛肉の輸入の継続について積極的に働きかけていく必要があるとしている。

また、韓国向けは2万1495トン（同21.6%増）と月間記録を更新した。この要因としては、韓国国内の低調な牛と畜頭数および豪州産牛肉のブランド認知度の向上に加え、9月12日に発動した韓豪FTAに基づくセーフガードを見越した駆け込み需要によるものとみられている。9月12日以降は関税率が24%となり、米国産牛肉などとの価格競争面で不利な状況となることから、今後の輸出量への影響が懸念されている。

（注3）海外情報「中国、豪州産牛肉に対し特別セーフガードを発動（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004196.html）をご参照ください。

（注4）海外情報「中国商務部、輸入牛肉に対するセーフガード措置実施の調査を開始（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004023.html）をご参照ください。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 8月	25年 8月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)
米国	41,006	40,754	▲0.6%	286,876	22.1%
中国	15,149	22,323	47.4%	182,506	50.6%
日本	19,676	19,408	▲1.4%	160,226	▲10.9%
韓国	17,675	21,495	21.6%	143,890	12.9%
東南アジア	14,403	12,310	▲14.5%	92,270	1.3%
中東	2,731	3,574	30.9%	24,832	3.0%
E U	1,084	2,324	114.3%	15,581	74.3%
その他	10,073	13,382	32.8%	82,043	25.2%
輸出量合計	121,797	135,570	11.3%	988,224	15.8%

資料：DAFF「Australian red meat export statistics」

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

(調査情報部 国際調査グループ)

ウルグアイ

25年の牛と畜頭数および牛肉輸出量は前年同期比増で推移

25年1～8月の牛と畜頭数は前年同期比6.2%増

ウルグアイ食肉協会（INAC）によると、2025年1～8月の牛と畜頭数は161万7000頭（前年同期比6.2%増）と前年同期をかなりの程度上回った（図1）。米国農務

省（USDA）によると、堅調な外需に加え、同国内で肥育牛に穀物を与えるケースが増加していることで増体効率が向上し、と畜月齢が早期化していることが一因とされている。

去勢牛生産者出荷価格は上昇傾向で推移

INACによると、2025年9月第3週（9月14～20日）の去勢牛生産者出荷価格は、1キログラム当たり5.35米ドル（802円：1米ドル＝149.88円（注1）、前年同期比31.9%高）と前年同期を大幅に上回った（図2）。これについてUSDAは、輸出向け牛肉の単価が高水準で推移していることが要因としている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年9月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図1 月別牛と畜頭数の推移

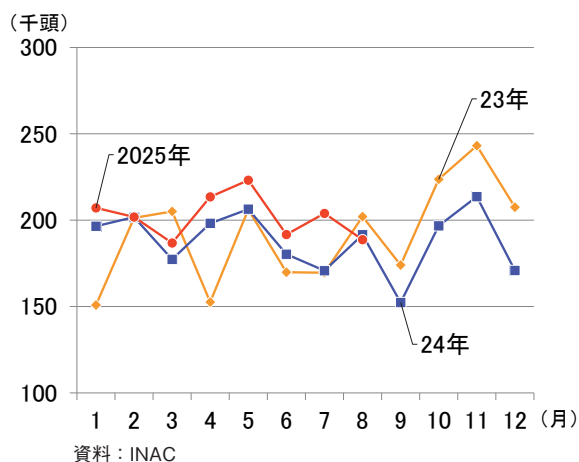


図2 去勢牛生産者出荷価格の推移



25年1～7月の牛肉輸出量は前年同期比11.1%増

2025年1～7月の牛肉輸出量は、22万3789トン（前年同期比11.1%増）と前年同期をかなり大きく上回った（表）。また、牛肉価格は1キログラム当たり6.62米ドル（992円、同20.6%高）と前年同期を大幅に上回った。USDAは、輸出量の増加および価格の上昇により、25年の輸出額は過去最高を記録すると予測している。

輸出量を仕向け先ごとに見ると、輸出量全体の約4割を占める中国向けは、8万4190トン（同3.2%減）と前年同期をやや下回った。一方で、輸出量全体の約3割を占める米国向けは、7万1120トン（同35.7%増）と前年同期を大幅に上回った。米国は国内生産量が減少しているため、ウルグアイなどからの輸入量が増加している。USDAによると、米国向け製品の多くは骨なし冷凍前四分体（フォアクォータ）、中国向け製品の多くは骨なし冷凍ブロック肉であるが、いずれも加工用途であり、これら2カ国向けの製品は類似していることで競合関係にあるとされる。このため、ブラジル産牛肉に対する米国の関税措置（注2）は、ウルグアイ産牛肉の米国向け輸出量の増加と、それに伴う中国向け輸出量の減少をもたらすとみている。

（注2）詳細は『畜産の情報』2025年10月号「海外需給【牛肉/ブラジル】」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003907.html）をご参照ください。

表 牛肉輸出の推移

国名	2024年（1～7月）			25年（1～7月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	86,942	353,284	4.06	84,190	386,440	4.59	▲3.2%	9.4%	13.0%
米国	52,402	306,517	5.85	71,120	509,020	7.16	35.7%	66.1%	22.4%
オランダ	8,862	92,864	10.48	14,534	154,435	10.63	64.0%	66.3%	1.4%
イタリア	4,425	34,390	7.77	7,193	66,119	9.19	62.6%	92.3%	18.3%
イスラエル	10,109	66,553	6.58	7,128	55,978	7.85	▲29.5%	▲15.9%	19.3%
カナダ	3,878	17,178	4.43	4,692	27,703	5.90	21.0%	61.3%	33.3%
英国	2,469	22,184	8.99	4,025	33,655	8.36	63.1%	51.7%	▲7.0%
日本	4,113	23,373	5.68	3,868	23,761	6.14	▲6.0%	1.7%	8.1%
ブラジル	3,916	40,766	10.41	3,692	35,238	9.54	▲5.7%	▲13.6%	▲8.3%
その他	24,386	148,936	6.11	23,346	189,656	8.12	▲4.3%	27.3%	33.0%
合計	201,502	1,106,044	5.49	223,789	1,482,005	6.62	11.1%	34.0%	20.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード0201、0202の合計。

注2：製品重量ベース。

（調査情報部 原田 祥太）

豚 肉

メキシコ

25年、26年の豚肉生産量は前年を上回る見込み

25年の豚肉生産量は前年比1.9%増の見込み

米国農務省海外農務局（USDA/FAS）は2025年8月27日、25年および26年のメキシコの豚肉需給見通しを発表した。これによると、25年の豚と畜頭数は1852万頭（前年比1.5%増）、豚肉生産量は142万トン（同

1.9%増）と、いずれもわずかな増加が見込まれている（表1）。また、豚肉消費量は、堅調な外食需要や手頃なたんぱく源を求める消費者による牛肉の代替需要などから、274万トン（同4.9%増）とやや増加すると見込まれている。26年は、ブラジル産などが台頭する輸出量を除き、各項目で前年を上回って推移するとみられている。

表1 メキシコの豚肉需給の推移

（単位：千頭、千トン）

項目	2024年	25年	前年比 (増減率)	26年	前年比 (増減率)
と畜頭数	18,249	18,522	1.5%	19,078	3.0%
供給量	2,865	2,952	3.0%	3,046	3.2%
生産量	1,395	1,422	1.9%	1,471	3.4%
輸入量	1,470	1,530	4.1%	1,575	2.9%
輸出量	258	216	▲16.3%	210	▲2.8%
消費量	2,607	2,736	4.9%	2,836	3.7%

資料：USDA/FAS「Gain Report」New Post

注1：2025、26年は予測値。

注2：枝肉重量ベース。

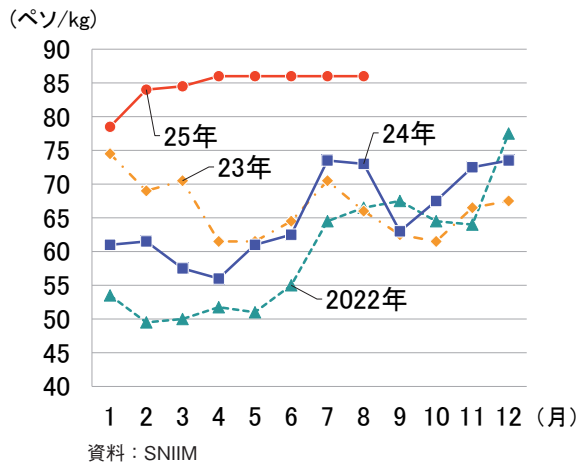
豚枝肉価格は高値で推移、25年8月は前年同月比17.8%高

メキシコ国家情報市場統合システム（SNIIM）によると、2025年8月の豚枝肉価格は、1キログラム当たり86.0ペソ（783円：1ペソ＝9.10円^{（注）}、前年同月比17.8%高）と大幅に上回った（図）。米国農務省（USDA）によると、豚肉需要が高いことに

加え、治安の悪化に伴い輸送貨物に対する襲撃事件の発生など、物流の混乱による物流コストの上昇なども価格上昇の一因とみられている。また、同月の生体豚価格も、同49.0ペソ（446円、同3.6%高）とやや上回った。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年9月末TTS相場。

図 豚枝肉価格の推移



25年上期の豚肉輸出量は前年同期比15.8%減、輸入量は同13.9%増

2025年上期（1～6月）の豚肉輸出量は、7万5000トン（前年同期比15.8%減）とかなり大きく減少した（表2）。輸出先別に

見ると、ロースなどが中心となる米国向けは1万4100トン（同3.0%増）となった。一方、輸出先第1位の日本向けは5万3400トン（同18.9%減）、韓国向けは4600トン（同20.7%減）といずれも大幅に減少した。この要因として、アジア圏では、ブラジル産など、より安価な豚肉を求める動きが強いためとみられる。

同期の豚肉輸入量は、生産量を上回る国内需要の高まりから、73万6300トン（同13.9%増）とかなり大きく増加した（表3）。輸入先別に見ると、米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）により米国やカナダ産の堅調な輸入が続く中、ブラジル産は2万7300トン（同2.9倍）と大幅に増加した。これは、メキシコ政府によるインフレ率上昇抑制策（PACIC）の下で、一時的に豚肉の輸入関税が撤廃されていたことが有利に働いた。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

国名	2024年 (1～6月)	25年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)	輸出割合
日本	65.8	53.4	▲18.9%	71.2%
米国	13.7	14.1	3.0%	18.9%
韓国	5.8	4.6	▲20.7%	6.1%
その他	3.7	2.8	▲23.3%	3.8%
合計	89.1	75.0	▲15.8%	100.0%

資料：「Global Trade Atlas」、BOL（船荷証券）に基づく集計値

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

表3 輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：千トン）

国名	2024年 (1～6月)	25年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)	輸入割合
米国	557.7	603.4	8.2%	82.0%
カナダ	78.0	102.8	31.8%	14.0%
ブラジル	9.5	27.3	187.5%	3.7%
その他	1.4	2.8	101.6%	0.4%
合計	646.6	736.3	13.9%	100.0%

資料：「Global Trade Atlas」、BOL（船荷証券）に基づく集計値

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

（調査情報部 大西 未来）

25年上半期の豚肉生産量は増加も、価格は低下傾向

25年6月の豚肉生産量、前年同月比 5.1%増

欧州委員会によると、2025年6月の豚肉生産量（EU27カ国）は、167万3980トン（前年同月比5.1%増）とやや増加した（図1）。これは、豚と畜頭数が1744万9530頭（同3.7%増）と前年同月をやや上回ったことに加え、1頭当たりの枝肉重量も95.93キログラム（同1.3%増）とわずかに増加したことが影響した。また、同年上半期（1～6月）の豚肉生産量は、前年同期比3.2%増とやや増加した（表1）。

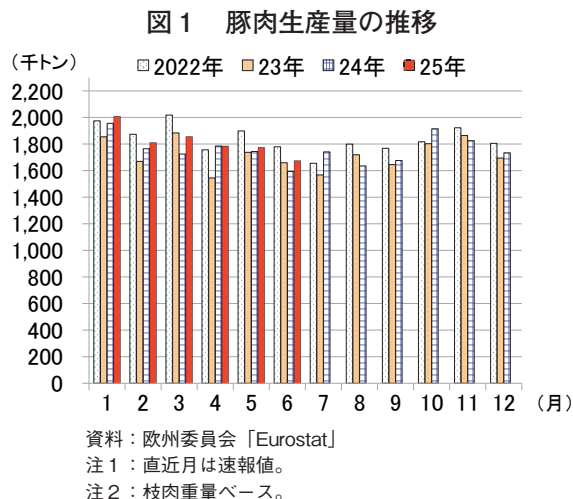


表1 主要生産国別豚肉生産量

（単位：千トン）

国名	2024年 6月	25年 6月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	363	406	11.9%	2,690	7.3%
ドイツ	333	334	0.3%	2,148	1.9%
フランス	163	167	2.6%	1,042	▲0.4%
ポーランド	146	158	8.3%	984	5.3%
デンマーク	93	105	12.6%	696	3.5%
イタリア	97	104	7.0%	665	5.8%
オランダ	104	83	▲20.0%	695	▲6.6%
その他	293	316	7.9%	1,986	3.2%
合計	1,593	1,674	5.1%	10,906	3.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

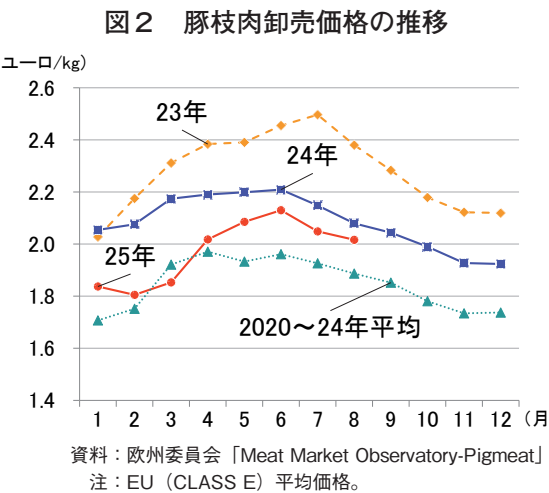
豚肉生産上位2カ国の状況を見ると、多大な豚肉処理能力を有するスペインは、域内からの生体豚輸入を増やしたことで、25年上半期の豚肉生産量は前年比7.3%増とかなりの程度増加した。生体豚の輸入は、子豚の約7割をオランダから、肥育豚の約5割をポル

トガルとフランスから行っており、それぞれ前年同期比で1.5倍以上増加させている。なお、オランダからスペインへ向けた子豚の輸出量は、25年1月以降ドイツ向け同輸出量を上回って推移している。一方、ドイツは、口蹄疫やアフリカ豚熱により域外向け豚肉

輸出が制限される中、イタリア、ポーランドおよびオランダなど域内向け輸出の増加により、生産量が前年同期比1.9%増加した。

25年8月の豚枝肉卸売価格、需要減で低下

欧州委員会によると、2025年8月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比3.0%安の1キログラム当たり2.02ユーロ（355円：1ユーロ＝175.97円^{（注）}）となった（図2）。同価格は2カ月連続で前月を下回った。



ドイツでのわずかな下落（前月比0.6%安）をはじめ、ほぼすべての主要生産国で下落が見られ、中でも夏季休暇需要が終盤に差し掛かっているスペインでは同4.5%安となっている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年9月末TTS相場。

25年7月の豚肉輸出量、前年同月比0.8%増

欧州委員会によると、2025年7月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、17万1867トン（前年同月比0.8%増）と4カ月ぶりにわずかに増加した（表2）。この結果、同年1～7月期の同輸出量は前年同期比0.4%減となった。一方、輸出先第1位の中国が、暫定的なアンチダンピング関税を同年9月10日から発効したため、今後の輸出量減少や輸出価格の下落圧力が強まることが想定される。これは、アンチダンピング調査期間の終了予定となる同年12月16日まで継続することが見込まれる。

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

国名	2024年 7月	25年 7月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
中国	44,311	42,658	▲3.7%	283,947	2.3%
英国	29,688	28,085	▲5.4%	185,180	▲5.2%
日本	26,154	20,241	▲22.6%	148,119	▲20.2%
韓国	13,443	16,391	21.9%	128,820	▲1.4%
フィリピン	11,898	10,332	▲13.2%	65,204	▲9.2%
豪州	5,232	4,898	▲6.4%	40,132	4.1%
その他	39,741	49,262	24.0%	324,434	15.5%
合計	170,467	171,867	0.8%	1,175,836	▲0.4%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコードは0203。

（調査情報部 渡辺 淳一）

鶏 肉

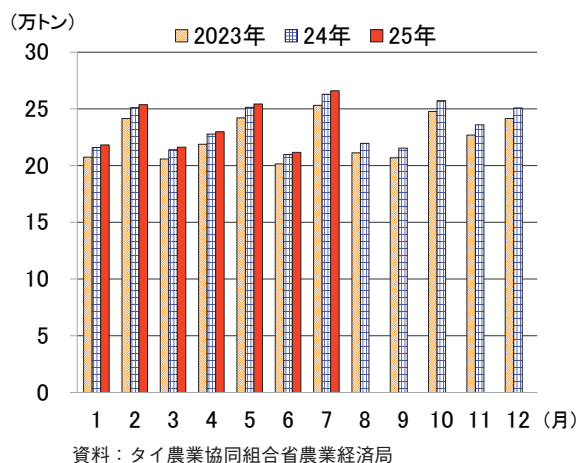
タ イ

25年 1 ～ 7 月の冷凍鶏肉輸出量、前年同期比13.9%増

25年 1 ～ 7 月の鶏肉生産量、前年同期比1.1%増加

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2025年 1 ～ 7 月の鶏肉生産量は164万9938トン（前年同期比1.1%増）とわずかに増加した（図1）。

図1 鶏肉生産量の推移



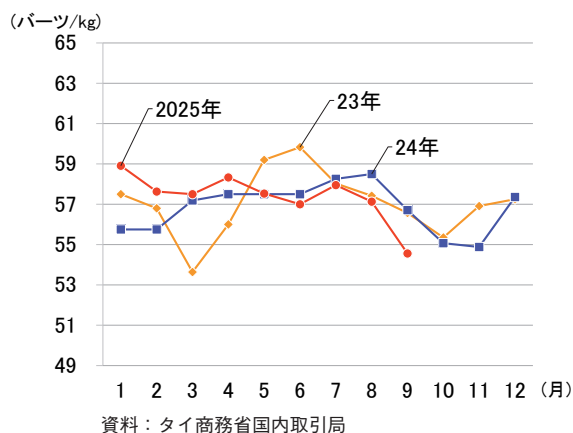
25年 9 月の鶏肉卸売価格、前年同月比3.8%安

2025年 9 月の鶏肉卸売価格は、前年同月比3.8%安の 1 キログラム当たり54.56バーツ（256.43円：1 バーツ＝ 4.70円^(注)）とやや下落した（図2）。この要因について現地関係者は、1）6月から雨季に入り国内消費が落ち込んだこと、2）学校の長期休暇により給食向けの需要がなくなったこと、3）豚肉価格も7月以降は下落が続き、豚肉に一部の需要が流れたこと、4）25年 7 月

に発生したタイとカンボジアの国境地帯の紛争により、大企業の加工施設で就労していたカンボジア人労働者が帰国したため、加工度の低い国内向けが増加したこと—を挙げている。一方、今後の価格については、10月に雨季が明けることに加え、学校の新学期の開始に伴い給食向けなどの需要が回復することで、上昇に転じると予測している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年 9 月末TTS相場。

図2 鶏肉卸売価格の推移



25年 1 ～ 7 月の冷凍鶏肉の輸出量、前年同期比13.9%増

2025年 1 ～ 7 月の冷凍鶏肉の輸出量は、29万7589トン（前年同期比13.9%増）とかなり大きく増加した（表1）。25年 5 月以降にブラジルの複数州で高病原性鳥インフルエンザが発生したことを受け、代替輸入先としてタイ産鶏肉の需要が増加したためとみられる。

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2023年	24年	25年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
日本	16.6	17.9	10.8	7.0%
中国	11.5	11.3	7.0	10.6%
マレーシア	9.1	9.1	6.2	15.1%
韓国	3.2	2.2	1.9	29.5%
アラブ首長国連邦	0.02	0.98	1.4	289.8%
その他	6.8	4.6	2.5	▲2.2%
合計	47.2	46.1	29.8	13.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは020714。

25年1～7月の鶏肉調製品の輸出 量、前年同期比4.6%増

2025年1～7月の鶏肉調製品輸出量は、40万3525トン（前年同期比4.6%増）とやや増加した（表2）。このうち日本向けは、

節約志向などを背景とした鶏肉需要により堅調に推移し、17万6252トン（同1.9%増）とわずかに増加した。今後の鶏肉輸出について現地関係者は、タイとカンボジアの国境地帯の紛争により、輸出向け鶏肉製品の生産に影響が出ているため、注視が必要としている。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2023年	24年	25年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
日本	28.6	30.1	17.6	1.9%
英国	16.1	19.9	11.8	5.8%
オランダ	4.1	4.5	2.8	7.3%
韓国	2.9	2.9	1.5	▲9.2%
その他	8.0	10.3	6.5	13.3%
合計	59.6	67.7	40.4	4.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは160232。

(調査情報部 山崎 葵)

牛乳・乳製品

米 国

25年8月の生乳生産量は増加、同月のバター・チーズ卸売価格は増産で下落基調

25年8月の生乳生産量は前年同月比3.2%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年8月の乳用経産牛飼養頭数は952万頭（前年同月比1.9%増）とわずかに増加した（図1）。これは、乳価が堅調に推移していることや、後継牛価格の上昇により乳牛群の更新が難しい中、乳用経産牛を保留する傾向が強まっていることが要因とされている。同月の生乳生産量は、乳用経産牛飼養頭数および1頭当たり乳量（同1.4%増）の増加により、885万4000トン（同3.2%増）とやや増加した（図2）。

図1 乳用経産牛飼養頭数の推移

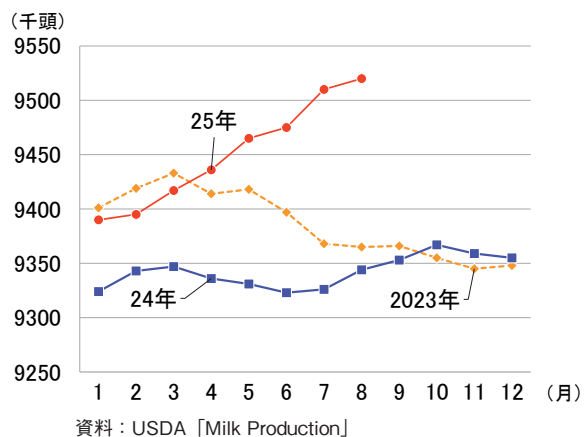
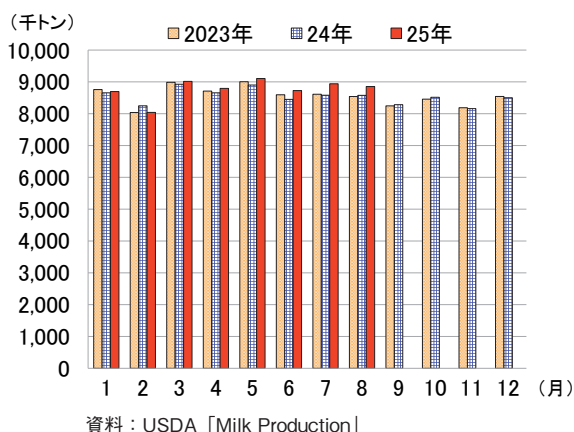


図2 生乳生産量の推移

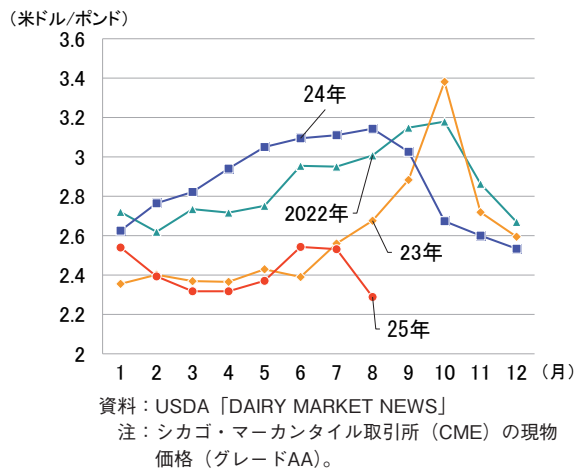


25年8月のバター卸売価格は前年同月比27.2%安

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2025年8月のバター卸売価格は、生乳生産量や生乳に含まれる乳脂肪分増加によるバター供給量の増加から、1ポンド当たり2.29米ドル（1キログラム当たり757円：1米ドル＝149.88円^{（注）}、前年同月比27.2%安）と前年同月を大幅に下回り、22年以降の最安値となった（図3）。また、同月のチーズ卸売価格は、生乳生産量の増加に加え、新規加工施設の稼働に伴う生産能力の向上から、同11.0%安の同1.81米ドル（同597円）とかなり大きく下回った。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2025年9月末TTS相場。

図3 バターの卸売価格



乳脂肪分ベースでは前年同月比33.0%増と大幅に増加し、無脂肪分ベースでは同2.8%減とわずかに減少した。

品目別に見ると、脱脂粉乳（NDM）は東南アジア向け輸出が減少したため、5万9800トン（同15.7%減）とかなり大きく減少した（表）。一方、ホエイはメキシコや東南アジア向けの輸出増により、1万6300トン（同18.6%増）と大幅に増加した。チーズおよびバターは、欧州産などに比べ価格優位性があることから、チーズは5万2100トン（同29.3%増）、バターは8400トン（同約3.1倍）といずれも大幅に増加した。

25年7月の乳製品輸出量、脱脂粉乳は減少もチーズやバターは増加

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年7月の乳製品輸出量は、

表 主要乳製品輸出量の推移

(単位：千トン)

品目	2024年 7月	25年 7月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	70.9	59.8	▲15.7%	392.5	▲12.3%
チーズ	40.3	52.1	29.3%	346.1	13.5%
乳糖	33.7	36.3	7.8%	236.8	▲0.5%
ホエイ	13.8	16.3	18.6%	110.6	3.9%
WPC	13.2	13.4	1.8%	76.0	▲19.9%
バター	2.7	8.4	206.4%	39.4	123.4%

資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

25年9月第3週の乳製品価格、チーズは上昇もバターや粉乳は下落

25年7月の生乳出荷量は前年同月比0.1%減

欧州委員会によると、2025年7月の生乳出荷量(EU27カ国)は1253万6000トン(前年同月比0.1%減)と、前年同月並みとなった(図1、表)。この要因として、同年6月時点の乳牛飼養頭数は同1.6%減とわずかに減少したが、生乳取引価格は過去5カ年平均を大幅に上回っているほか、現地報道によると、1)飼料コストの低下、2)夏の穏やかな気候、3)良質な牧草の生育一などが出荷量の維持に寄与したとされている。同委員会によると、同年上半期(1~6月)の乳脂肪分

および無脂乳固形分は、前年同期比0.7%増とされている。

図1 生乳出荷量の推移

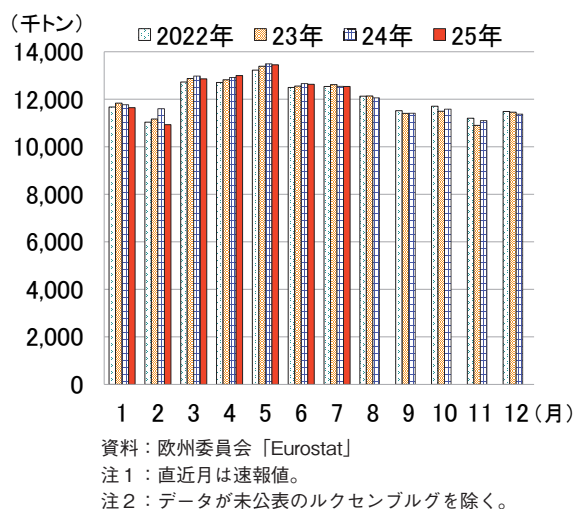


表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

国名	2024年 7月	25年 7月	前年同月比 (増減率)	25年 (1~7月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,773	2,740	▲1.2%	18,945	▲2.4%
フランス	1,955	1,969	0.7%	14,278	▲0.8%
ポーランド	1,145	1,174	2.5%	8,129	0.5%
オランダ	1,148	1,148	0.0%	8,073	▲1.5%
アイルランド	1,001	1,037	3.6%	5,826	6.3%
イタリア	1,069	1,026	▲4.1%	7,605	▲3.9%
その他	3,454	3,442	▲0.3%	24,185	▲1.2%
合計	12,545	12,536	▲0.1%	87,041	▲1.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

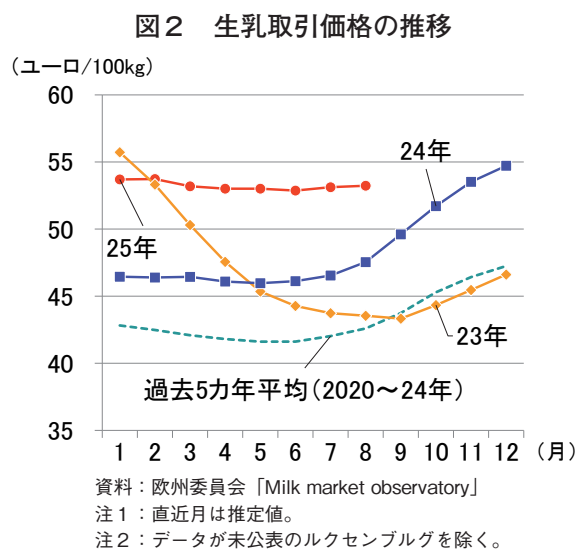
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

25年8月の生乳取引価格は前年同月比12.0%高

欧州委員会によると、2025年8月の生乳取引価格(EU27カ国の平均)は、100キログラム当たり53.23ユーロ(1キログラム当たり94円：1ユーロ=175.97円^(注)、前年

同月比12.0%高)と16カ月連続で前年同月を上回った(図2)。同価格は、高水準で推移するバターなどの乳製品価格にけん引される形で好調を維持している。

(注)三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年9月末TTS相場。

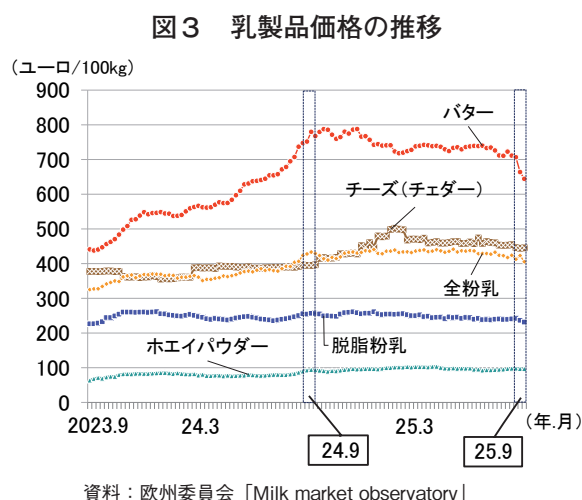


25年9月第3週のバター価格、13カ月ぶりに700ユーロを下回る

欧州委員会によると、2025年9月14日の週の製品別乳製品価格(EU27カ国の平均)は、バターが100キログラム当たり644ユーロ(1キログラム当たり1133円、前年同期比14.3%安)と、24年8月以来、13カ月ぶりに700ユーロ(1232円)台を下回った(図3)。このほか、全粉乳が同406ユーロ(同714円、同5.3%安)とやや、脱脂粉乳が同232ユーロ(同408円、同9.0%安)とかなりの程度前年同期を下回った。一方、チーズは同445ユーロ(同783円、同12.8%高)と前年同期をかなり大きく上回った。

乳固形分の増加もあり、同年上半期のEU27カ国のバター生産量は112万1900

トン(同2.4%増)と増加しており、また、同期間のEU域外からのバター輸入量も1万4065トン(同約2.5倍)と大幅に増加している。ウクライナ、ニュージーランド(NZ)およびノルウェーからの比較的安価なバターの輸入量が増加しており、EU域内のバター価格の高騰が背景にあるとみられる。また、米国産バターの価格下落やNZ産バターに対する価格競争力の低下により、EU産バターの価格の下落が継続すると見込まれる。米国農務省農業マーケティング局(USDA/AMS)によると、ここ数週間、EUの市場取引業者は、さらなるバター価格の下落を期待し、価格変動下での取引を控えているとされている。



(調査情報部 渡辺 淳一)

25/26年度の生乳生産量は前年度を上回って推移

25年8月の生乳生産量、前年同月比1.8%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年8月の生乳生産量は144万4000トン（前年同月比1.8%増）とわずかに増加し、8月単月の生産量としては20年以降で最大となった（図1）。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、肥料などの生産コストが上昇しているもの

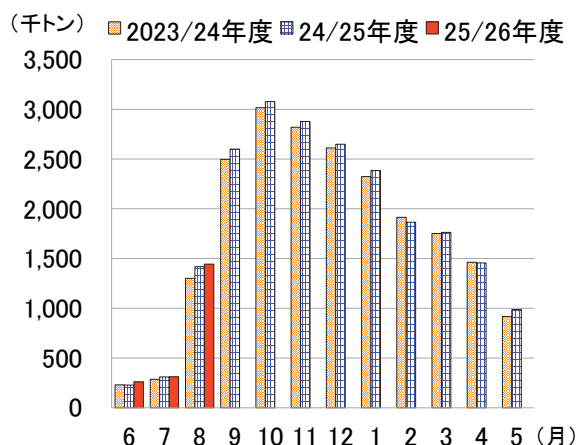
の、1）良好な放牧環境、2）比較的安価な飼料価格、3）高い水準にある25/26年度（6月～翌5月）の生産者支払乳価一などが、酪農家の生産意欲の向上につながったことを挙げている。

また、今後の生乳生産の見通しについてNZXは、牧草の生育状況は地域でばらつきが出る可能性があるものの、全体としては前年度を上回ると予想している。

25年8月の全粉乳、バターおよびバターオイルの輸出量増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年8月の乳製品輸出量は、主要4品目のうち全粉乳、バターおよびバターオイルがいずれも前年同月を大幅に上回った（表、図2）。品目別に見ると、全粉乳はインドネシア向けが、バターおよびバターオイルは中国向けが、それぞれ増加したことが寄与した。一方、脱脂粉乳はインドネシア向けが、チーズは日本向けが、いずれも減少したことが影響した。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ「New Zealand Monthly Milk Production Report」

注：年度は6月～翌5月。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

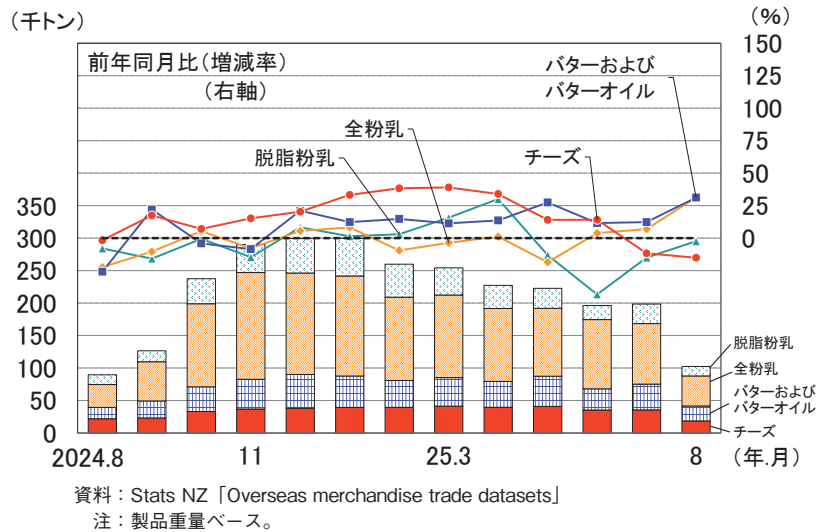
品目	2024年 8月	25年 8月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	14,969	14,609	▲2.4%
全粉乳	35,219	46,237	31.3%
バターおよびバターオイル	17,495	22,955	31.2%
チーズ	21,900	18,592	▲15.1%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



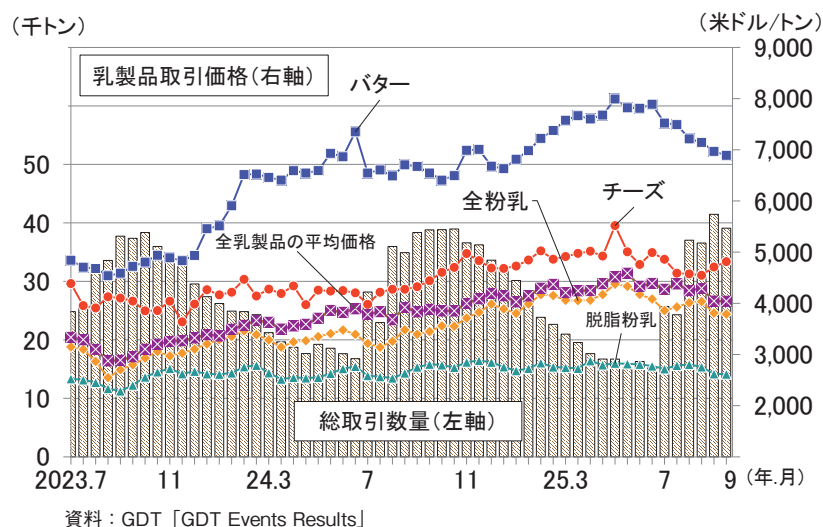
25年9月16日のGDT平均価格、チーズは上昇

2025年9月16日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、チーズが前回開催時（25年9月2日）を上回った（図3）。取引全体では、東南アジア、オセアニア地域と中東からの需要が増加したことで、北東アジアの需要

減少分を相殺し、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4041米ドル（60万5665円、1米ドル＝149.88円^(注2)、前回比0.0%安）と前回並みになった。

（注1）グローバルデリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年9月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



（調査情報部 田中 美宇）

中国

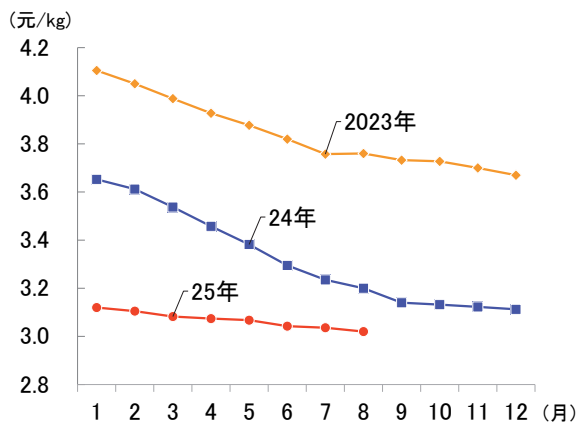
生乳価格は引き続き下落、主要乳製品輸入量は脱脂粉乳を除き増加

25年8月の生乳価格、前年同月比5.6%安

中国農業農村部によると、2025年8月の生乳価格は1キログラム当たり3.02元（63.96円：1元＝21.18円^{（注1）}、前年同月比5.6%安）と前年同月をやや下回った（図1）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年9月末TTS相場。

図1 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

この要因について同部は、25年9月に公表した「農産物需給動向分析月報（2025年8月）」（以下「月報」という）の中で、1）気温の低下に伴う乳用牛の暑熱ストレス緩和による生乳生産量の回復、2）アイスクリームなど季節商品の消費量減少による生乳の供給過剰—としている。また、今後の生乳価格についても、生乳の供給過剰は当面続くことから、短期的には下落が続くとしている。

25年1～8月の乳製品輸入量、脱脂粉乳を除きいずれも増加

2025年1～8月の乳製品主要8品目の輸入量は、脱脂粉乳を除く7品目で前年同期を上回った（表）。乳製品輸入量の増加要因について中国農業農村部は、9月に公表した月報の中で、1）高水準にある豚飼養頭数^{（注2）}を背景とした豚飼料向けホエイの需要増加、2）茶飲料業界やベーカリー業界の急速な拡大によるクリームやバターなどの需要増加—

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

品目	2023年	24年	25年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】 前年同期比 (増減率)
全粉乳	43.1	41.0	32.2	2.9%	21.9%
脱脂粉乳	34.7	22.9	16.4	▲3.0%	5.7%
飲用乳	54.8	41.7	28.5	4.8%	9.2%
ヨーグルト	1.8	1.6	1.1	12.0%	▲0.4%
チーズ	17.8	17.3	12.9	8.9%	17.4%
バター	9.3	10.5	7.1	3.1%	27.3%
育児用調製粉乳	23.8	21.6	14.6	4.5%	14.6%
ホエイ	65.6	64.5	46.3	12.7%	14.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と401.20、ヨーグルトは0403.20、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。

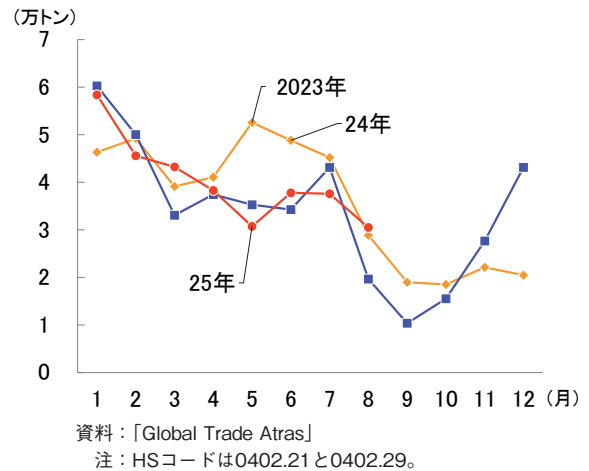
といった個別要因を挙げつつ、現在の中国の乳製品製造能力では、急速に拡大するこれら乳製品の国内需要に対応できないためとしている。

(注2)『畜産の情報』2025年10月号「生産能力調整措置などから子豚価格は下落傾向、前年同月比18.6%安」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003910.html)をご参照ください。

中国政府は25年3月27日、国産生乳の消費拡大などを目的に、滅菌乳（常温保存牛乳）の原料として生乳のみの使用を義務付け、全粉乳などの使用は認めないとする国家基準「全国食品安全基準のうち牛乳（滅菌乳）」の改正を行い、同年9月16日に施行された。同基準が施行される前の8月までの全粉乳輸入量は前年と比較して大きな影響は見られないが（図2）、同輸入量は中国の乳製品輸入量

の約2割を占め、例年40万トンを超える量が輸入されていることから、今後の動向が注目される。

図2 全粉乳の輸入量の推移



（調査情報部 平山 宗幸）

飼料穀物

世界

25/26年度は生産量の下方修正から期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年9月12日、25/26年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億8658万トン（前年度比4.7%増）と前月から200万トン下方修正された。主要生産国では、EUの下方修正が米国の上方修正を上回った。

輸入量は、世界全体で1億9320万トン（同5.6%増）と前月から104万トン上方修正された。EUの輸入量が2300万トンと前月から100万トン上方修正されたことなどが反映

された。

消費量は、世界全体で12億8936万トン（同2.3%増）と前月から21万トン上方修正され、引き続き高水準を維持している。主要生産国ではブラジルおよびウクライナの上方修正が反映された。

輸出量は、世界全体で2億171万トン（同4.1%増）と前月から85万トン上方修正された。主要生産国では、米国の上方修正がEUの下方修正を上回った。

この結果、期末在庫は、生産量の下方修正が反映され、2億8140万トン（同1.0%減）と前月から114万トン下方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2025年9月12日米国農務省公表)

(単位: 百万トン)

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
			(8 月 予測)	(9 月 予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.55	44.79	33.15	33.66	▲24.8%
	生産量	389.67	377.63	425.26	427.11	13.1%
	輸入量	0.72	0.51	0.64	0.64	25.5%
	消費量	322.87	317.39	332.25	332.25	4.7%
	輸出量	57.28	71.89	73.03	75.57	5.1%
	期末在庫	44.79	33.66	53.77	53.58	59.2%
	ブラジル	期首在庫	9.88	8.33	7.99	8.83
生産量		119.00	135.00	131.00	131.00	▲3.0%
輸入量		1.72	1.50	1.60	1.60	6.7%
消費量		84.00	93.00	94.00	95.00	2.2%
輸出量		38.26	43.00	43.00	43.00	0.0%
期末在庫		8.33	8.83	3.59	3.43	▲61.2%
アルゼンチン		期首在庫	2.32	2.48	2.78	2.78
	生産量	51.00	50.00	53.00	53.00	6.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.60	15.20	15.60	15.60	2.6%
	輸出量	36.26	34.50	37.00	37.00	7.2%
	期末在庫	2.48	2.78	3.19	3.19	14.7%
	ウクライナ	期首在庫	3.00	0.64	0.76	1.06
生産量		32.50	26.80	32.00	32.00	19.4%
輸入量		0.01	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
消費量		5.38	5.80	6.33	6.43	10.9%
輸出量		29.49	20.60	25.50	25.50	23.8%
期末在庫		0.64	1.06	0.95	1.15	8.5%
EU		期首在庫	8.02	7.31	6.23	6.28
	生産量	61.95	59.31	58.00	55.30	▲6.8%
	輸入量	19.83	20.00	22.00	23.00	15.0%
	消費量	78.10	77.60	77.90	76.90	▲0.9%
	輸出量	4.39	2.75	2.50	1.80	▲34.5%
	期末在庫	7.31	6.28	5.83	5.88	▲6.4%
	中国	期首在庫	206.02	211.19	194.18	193.09
生産量		288.84	294.92	295.00	295.00	0.0%
輸入量		23.33	3.00	10.00	10.00	233.3%
消費量		307.00	316.00	321.00	321.00	1.6%
輸出量		0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%
期末在庫		211.19	193.09	178.16	177.07	▲8.3%
世界計		期首在庫	305.41	315.53	283.11	284.18
	生産量	1231.06	1228.91	1288.58	1286.58	4.7%
	輸入量	197.44	182.96	192.16	193.20	5.6%
	消費量	1220.93	1260.26	1289.15	1289.36	2.3%
	輸出量	192.57	193.80	200.86	201.71	4.1%
	期末在庫	315.53	284.18	282.54	281.40	▲1.0%

資料: USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注: 各国の穀物年度 米国: 9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国: 10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル: 3月～翌2月。

(調査情報部 岡田 真希奈)

米国大豆生産量は上方修正となるも 期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年9月12日、25/26年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2587万トン（前年度比0.4%増）と前月から52万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは前月から据え

表 主要国の大豆需給見通し（2025年9月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
			(8 月 予 測)	(9 月 予 測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	7.19	9.32	8.99	8.98	▲3.6%
	生産量	113.27	118.84	116.82	117.05	▲1.5%
	輸入量	0.57	0.74	0.54	0.54	▲27.0%
	消費量	62.20	66.13	69.13	69.54	5.2%
	輸出量	46.27	51.03	46.40	45.86	▲10.1%
	期末在庫	9.32	8.98	7.89	8.17	▲9.0%
ブラジル	期首在庫	36.82	29.76	36.11	36.21	21.7%
	生産量	154.50	169.00	175.00	175.00	3.6%
	輸入量	0.87	0.65	0.15	0.35	▲46.2%
	消費量	54.41	57.00	58.00	58.00	1.8%
	輸出量	104.17	102.10	112.00	112.00	9.7%
	期末在庫	29.76	36.21	36.96	37.26	2.9%
アルゼンチン	期首在庫	17.00	24.05	25.25	24.05	0.0%
	生産量	48.21	50.90	48.50	48.50	▲4.7%
	輸入量	7.79	6.80	7.20	7.20	5.9%
	消費量	36.58	42.60	43.00	42.40	▲0.5%
	輸出量	5.11	7.30	5.80	6.00	▲17.8%
	期末在庫	24.05	24.05	24.65	23.85	▲0.8%
中国	期首在庫	32.34	43.31	43.48	43.48	0.4%
	生産量	20.84	20.65	21.00	21.00	1.7%
	輸入量	112.00	106.50	112.00	112.00	5.2%
	消費量	99.00	103.00	108.00	108.00	4.9%
	輸出量	0.07	0.08	0.10	0.10	25.0%
	期末在庫	43.31	43.48	43.38	43.38	▲0.2%
世界計	期首在庫	101.88	115.14	125.19	123.58	7.3%
	生産量	396.36	424.20	426.39	425.87	0.4%
	輸入量	178.28	178.17	185.86	186.21	4.5%
	消費量	331.19	354.51	367.71	366.63	3.4%
	輸出量	177.81	183.47	187.44	187.78	2.3%
	期末在庫	115.14	123.58	124.90	123.99	0.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

置かれたが、これに次ぐ米国は、作付面積および収穫面積の増加を受けて前月から23万トン上方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8621万トン（同4.5%増）と前月から35万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億1200万トン（同5.2%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6663万トン（同3.4%増）と前月から108万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億800万トン（同4.9%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8778万トン（同2.3%増）と前月から34万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジル

は前月から据え置かれたが、これに次ぐ米国は、バイオ燃料向け大豆油の国内需要増加などに伴い、前月から54万トン下方修正された。

期末在庫は、生産量の下方修正などを反映して1億2399万トン（同0.3%増）と前月から91万トン下方修正された。

今回の予測値に関して、大豆の国際相場に影響を与える中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の中国の大豆輸入量9580万トンとUSDAの予測値には、引き続き1620万トンの乖離^{かいり}がある。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年9月12日、25/26年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

米国内生産量は、収穫面積が上方修正により1933年以来の最高値となったことで、168億1400万ブッシェル（4億2709万トン^{（注1）}、前年度比13.1%増）と前年度からかなり大きく増加し、過去最大の生産量が見込まれている。

米国内消費量は、130億8000万ブッシェル（3億3225万トン、同4.7%増）と前年度からやや増加すると見込まれている。

輸出量は、29億7500万ブッシェル（7557万トン、同5.1%増）と前年度からやや増加すると見込まれている。

期末在庫は、21億1000万ブッシェル（5360万トン、同59.2%増）と前年度から大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、13.1%（同4.5ポイント増）と、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、前月に続き1ブッシェル当たり3.90米ドル（585円。1キログラム当たり23円：1米ドル＝149.88円^{（注2）}、同9.3%安）と前年度からかなりの程度下落すると見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年9月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2025年9月12日米国農務省公表）

項目	－単位－	2023/24 年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			前年度比 (増減率)
				(8月予測)	(9月予測)	参考（換算値）	
作付面積	(百万エーカー)	94.6	90.6	97.3	98.7	39.94 (百万ヘクタール)	8.9%
収穫面積	(百万エーカー)	86.5	82.9	88.7	90.0	36.42 (百万ヘクタール)	8.6%
単収	(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3	188.8	186.7	11.72 (トン/ヘクタール)	4.1%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,305	1,325	33.66 (百万トン)	▲24.8%
生産量	(百万ブッシェル)	15,341	14,867	16,742	16,814	427.09 (百万トン)	13.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	28	20	25	25	0.64 (百万トン)	25.0%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,729	16,650	18,072	18,165	461.41 (百万トン)	9.1%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,711	12,495	13,080	13,080	332.25 (百万トン)	4.7%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,832	5,675	6,100	6,100	154.95 (百万トン)	7.5%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,879	6,820	6,980	6,980	177.30 (百万トン)	2.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,489	5,435	5,600	5,600	142.25 (百万トン)	3.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,255	2,830	2,875	2,975	75.57 (百万トン)	5.1%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,966	15,325	15,955	16,055	407.81 (百万トン)	4.8%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,763	1,325	2,117	2,110	53.60 (百万トン)	59.2%
期末在庫率	(%)	11.8	8.6	13.3	13.1		4.5ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.55	4.30	3.90	3.90	23.0 (円/kg)	▲9.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

（調査情報部 岡田 真希奈）

ブラジル

24/25年度トウモロコシおよび大豆の生産量、いずれも前年度比増

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は2025年9月11日、24/25年度第12回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した。この調査は、春植えの夏期作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

24/25年度トウモロコシ生産量は引き続き上方修正、前年度比20.9%増と過去最大の見込み

2024/25年度のトウモロコシ生産量は、前回（25年8月）より269万700トン上方修正の1億3969万5800トン（前年度比20.9%増）と、CONABが統計を取り始めて以来、最大になると見込まれている（表1、図1、2）。これは、作付面積（同3.8%増）と単収（同16.5%増）がいずれも前年度を上回るとの見通しによるものである。

表1 2024/25年度の主要穀物等の生産予測

項目	作付面積 (千ha)				単収 (トン/ha)				生産量 (千トン)			
	2023/24年度	24/25年度			23/24年度	24/25年度			23/24年度	24/25年度		
		(8月予測)	(9月予測)	前年度比増減率		(8月予測)	(9月予測)	前年度比増減率		(8月予測)	(9月予測)	前年度比増減率
穀物合計	79,892.3	81,922.0	81,742.9	2.3%	3.8	4.2	4.3	13.7%	301,094.2	345,237.9	350,206.3	16.3%
トウモロコシ	21,058.0	21,679.7	21,857.5	3.8%	5.5	6.3	6.4	16.5%	115,534.6	137,005.1	139,695.8	20.9%
第1期作	3,970.1	3,772.6	3,772.6	▲5.0%	5.8	6.6	6.6	14.3%	22,962.2	24,935.8	24,935.8	8.6%
第2期作	16,437.8	17,305.0	17,427.9	6.0%	5.5	6.3	6.4	17.3%	90,057.8	109,567.2	112,032.8	24.4%
第3期作	650.1	602.1	657.0	1.1%	3.9	4.2	4.2	7.7%	2,514.9	2,502.2	2,727.6	8.5%
大豆	46,095.9	47,637.2	47,350.6	2.7%	3.3	3.6	3.6	10.3%	151,283.4	169,657.0	171,472.3	13.3%

資料：CONAB

注1：2025年9月11日公表データ。

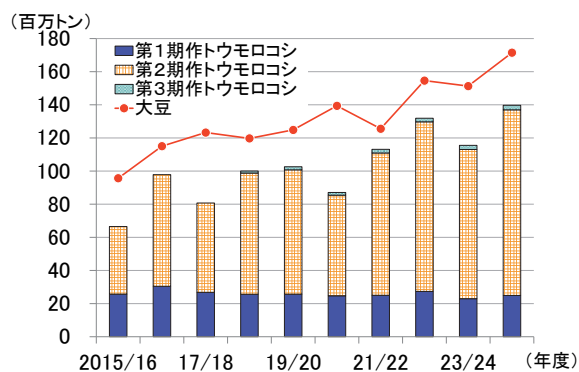
注2：第1期作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2期作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3期作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

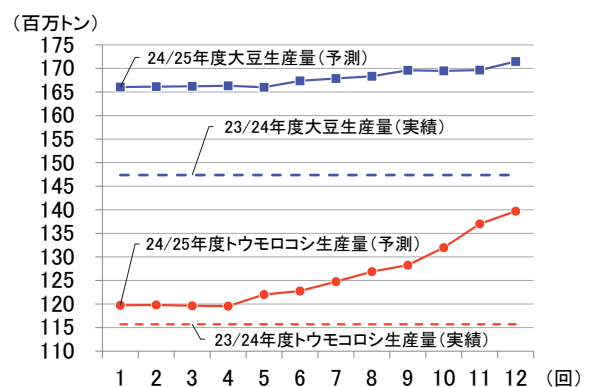


資料：CONAB

注1：2024/25年度は予測値。

注2：25年9月11日公表データ。

図2 2024/25年度の生産予測の推移



資料：CONAB

注：生産予測の第1回は2024年10月公表、以降毎月更新。

内訳を見ると、全生産量の2割を占める第1期作の生産量は、2493万5800トン（同8.6%増）と前回から据え置かれ、前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。24/25年度の第1期作の収穫は、8月中にすべての州で終了した。リオグランデ・ド・スル州では、25/26年度の第1期作の播種作業が始まっており、8月末時点で同州全体の作付面積に対して32%の進捗率となっている。

また、全生産量の8割を占める第2期作の生産量は、1億1203万2800トン（同24.4%増）と前回から246万5600トン上方修正され、前年度を大幅に上回ると見込ま

れている。第2期作の収穫は、平年並みの進捗率で推移しており、9月初旬には作付面積全体の97%に達し、中旬には終了が見込まれている。すでに収穫が終了しているマットグロッソ州では、施肥や防除を効果的に行ったことに加えて、天候に恵まれたことで単収が増加した結果、同州のみで第2期作全体の生産量の49%を占めた。

24/25年度のトウモロコシ需給を見ると、生産量が上方修正されたものの、輸出量は前回から据え置き4000万トン（同3.9%増）となり、期末在庫は前年度を大幅に上回ると見込まれている（表2）。

表2 ブラジルのトウモロコシ需給動向

(単位：千トン)

項目	2021/22年度	22/23年度	23/24年度	24/25年度	増減率 (%)
期首在庫	13,515.3	8,095.9	7,201.3	1,884.2	▲73.8
生産量	113,130.4	131,892.6	115,534.6	139,695.8	20.9
輸入量	2,615.1	1,313.2	1,644.7	1,700.0	3.4
総供給量	129,260.8	141,301.7	124,380.6	143,280.0	15.2
消費量	74,534.6	79,466.0	83,995.5	90,469.2	7.7
輸出量	46,630.3	54,634.4	38,500.9	40,000.0	3.9
総需要量	121,164.9	134,100.4	122,496.4	130,469.2	6.5
期末在庫	8,095.9	7,201.3	1,884.2	12,810.8	579.9

資料：CONAB

注：2025年9月11日公表データ。

24/25年度大豆生産量は引き続き上方修正、前年度比13.3%増と過去最大の見込み

2024/25年度の大豆生産量は、1億7147万2300トン（前年度比13.3%増）とCONABが統計を取り始めて以来、最大になると見込まれている（表1、図1、2）。これは、作付面積（同2.7%増）と単収（同

10.3%増）がいずれも前年度を上回るとの見通しによるものである。

24/25年度の大豆需給を見ると、生産量が前回から181万5300トン上方修正されたことにより、輸出量も1億665万5100トン（同7.9%増）と前回から40万1500トン上方修正されたものの、期末在庫は前年度を大幅に上回ると見込まれている（表3）。

表3 ブラジルの大豆需給動向

(単位：千トン)

項目	2021/22年度	22/23年度	23/24年度	24/25年度	増減率 (%)
期首在庫	9,361.7	9,549.0	11,033.9	7,231.3	▲34.5
生産量	130,828.7	159,154.3	151,283.4	171,472.3	13.3
輸入量	419.2	181.0	821.0	500.0	▲39.1
総供給量	140,609.6	168,884.3	163,138.3	179,203.6	9.8
種子/その他	2,862.5	3,368.5	3,427.5	3,638.9	6.2
輸出量	78,730.1	101,869.9	98,814.5	106,655.1	7.9
加工量	49,468.0	52,612.0	53,665.0	58,618.0	9.2
総需要量	131,060.6	157,850.4	155,907.0	168,911.9	8.3
期末在庫	9,549.0	11,033.9	7,231.3	10,291.7	42.3

資料：CONAB

注：2025年9月11日公表データ。

今回の調査で、CONABが大豆の作付面積と単収について見直しを行ったため、20/21年度から24/25年度の実産量が調整されている。また、併せて期末在庫もブラジ

ル地理統計院（IBGE）が公表した数値に基づき調整されている。

(調査情報部 原田 祥太)

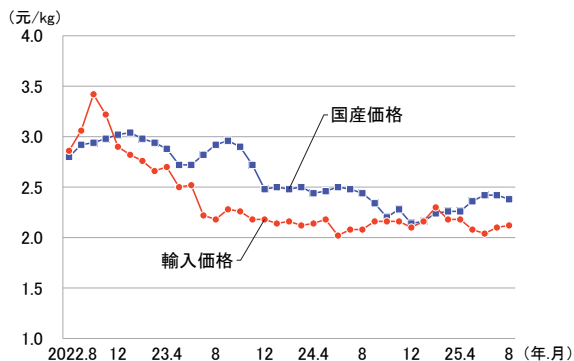
トウモロコシおよび大豆の価格動向

25年8月の国産トウモロコシ価格、国内需給を反映してわずかに下落

中国農業農村部は2025年9月25日、「農産物需給動向分析月報（2025年8月）」を公表した。この中で、25年8月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに下落した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では新穀の供給開始前に当たるため、市場への供給は穀物業者の手持ち在庫が主体となり、全体的に供給は不足傾向とされている。一方、需要面では特にコーンスターチ製造企業などの需要低下により、需給はやや軟調とされる。8月下旬における全国の主要コーンスターチ製造企業の製品在庫量は、前年同期比25.6%増の134万トンと高い水準にあることが報告されている。

このため、新穀の供給開始まで国産トウモロコシ価格は安定的な推移が見込まれている。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

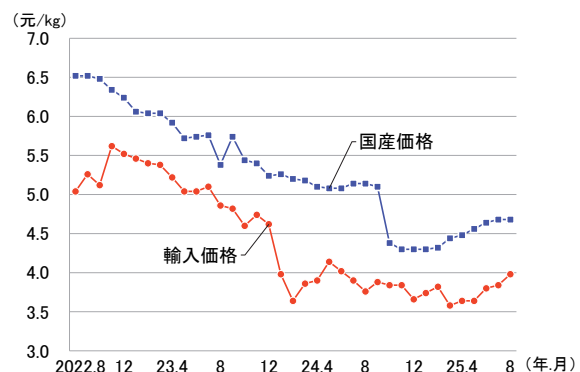
注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省^{かんとう}黄埔港到着は、25年8月が1キログラム当たり2.12元（45円：1元＝21.18円^{（注）}、前月比1.0%高）とわずかに上昇した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.38元（50円、同1.7%安）とわずかに下落したことで、輸入と国産の価格差は縮小した。

25年8月の国産大豆価格、備蓄大豆の競売継続により軟調な動き

2025年8月の国産大豆価格は、前月同となった（図2）。同月の大豆需給を見ると、供給面では産地の在庫が枯渇する中で、中央政府や地方政府による備蓄大豆の競売が継続して行われており、落札済みの大豆が順次市場に流入していることで、供給量は安定しているとされる。需要面では、気温の低下に伴い大豆製品の消費が徐々に回復してきたことや、新学期開始による学食の再開なども末端需要の増大に寄与するとされている。しかし、

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

備蓄大豆競売価格の下限がわずかに引き下げられた影響で、国産大豆価格は軟調な動きとなっており、新穀の供給開始までは安定的な推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省こくりゅうこうの食用向け国産大豆平均取引価格は、25年8月が1キログラム当たり4.08元（86円、前年同月比12.9%安）と前年同月をかなり大きく下回ったものの、2カ月連続で前月水準を維持した。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省さんとうの国産大豆価格は、同4.68元（99円、同8.9%安）と前年同月をかなりの程度下回ったものの、前月水準を維持した。さらに、同月の輸入大豆価格は同3.98元（84円、前月比5.9%高）となり、

輸入と国産の価格差は縮小した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年水準を上回ってきた。25年（1～7月）の輸入量は6104万トン（前年同期比4.6%増）とやや増加した。また、輸入額は同9.6%減の271億4400万米ドル（4兆683億円：1米ドル＝149.88円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の69.2%）、米国（同27.2%）、カナダ（同1.5%）、アルゼンチン（同1.1%）であり、ブラジルなどからの輸入が増加している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年9月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）